

果本ル安
元氏と
安氏と
あり

とて国産村の館より一に大山城之西屋
形と合致し一助川と峯形村との間に流矢
の中より死を婦に小糸といふあり小川
及へ家をいと云傳へり。唐内務院附録より
る慶安二年飽海郡国産村唐田肥前といふ
る姓公事形の上村の月よ田産ハ余目安
後及とあり同安二年田沢惣大庄屋山吉
出入り此の月よ田産の如ハ余目安保及此
全邦安保江邦及此を館よりめんとあり。唐田
肥前といふ時の出入りと云へり。七人うち邦

とて邦といふハ誤りて安保を邦安保江
邦といふハ本説より位僻より安保を邦と
あれを邦ハ代々の名よりや余目ハ一村の
名よりて又一郷の名に云々よめて余目上
余目下余目と稱を前件より治を所村以下
の十より村ハ余目館之上下の余目ハ下に治
を云々の事東鑑より見へり。元九し毫久治
又年余目田二品令求奥州两国省帳田
文已下文書給而平泉館炎上之時焼失
云々難知食其巨細被尋古老之處奥州